

2 章 付属施設工

2. 1 防護柵設置工	道路	27
2. 1. 1 防護柵工	道路	27
2. 1. 2 立入防止柵工	道路	29
2. 1. 3 車止めポスト設置工	道路	31
2. 1. 4 防雪柵設置・撤去工	道路	32
2. 1. 5 雪崩予防柵設置工	道路	34
2. 1. 6 防雪柵現地張出し・収納工	道路	37
2. 1. 7 ワイヤロープ設置工	道路	40
2. 2 落石防止工	道路	42
2. 2. 1 落石防止網工	道路	42
2. 2. 2 落石防止網（繊維網）設置工	道路	44
2. 2. 3 落石防護柵工	道路	45
2. 3 標識工	道路	47
2. 3. 1 標識工	道路	47
2. 4 道路付属施設工	道路	49
2. 4. 1 区画線工、高視認性区画線工	道路	49
2. 4. 2 路側工	道路	51
2. 4. 3 境界工	道路	52
2. 4. 4 道路付属物工	道路	53
2. 5 遮音壁設置工	道路	55
2. 6 組立歩道工	道路	61
2. 7 道路植栽工	道路	63

2. 1 防護柵設置工

2. 1. 1 防護柵工

1. 適用

ガードケーブル、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビーム及び横断・転落防止柵の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

ガードケーブル、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビーム及び横断・転落防止柵の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、設置形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	設置形式	単位	数量	備考
ガードレール	○	○	m		
ガードパイプ	○	○	m		
ガードケーブル	○	○	m		
ボックスビーム	○	○	m		
横断防止柵	○	○	m		支柱間隔別に算出

(2) 設置形式区分

1) ガードレール、ガードパイプ、ガードケーブル、ボックスビームの設置形式による区分は、下記のとおりとする。

- ① 土中建込み
- ② コンクリート建込み

2) 横断・転落防止柵の設置形式による区分は、下記のとおりとする。

- ① 土中建込用
- ② コンクリート建込用
- ③ プレキャストコンクリートブロック建込用（基礎ブロック質量100kg／個未満）
- ④ プレキャストコンクリートブロック建込用（基礎ブロック質量100kg／個以上）
- ⑤ アンカーボルト固定用

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ガードレール

- ① ガードレールの延長は、袖ビームを含む延長とする。
- ② 耐雪型の設置において、ビーム補強金具が必要な場合は別途算出する。

(2) ガードケーブル

- ① ガードケーブルの延長は、端末支柱間とし、中間（端末）支柱の本数も算出する。

(3) 土工、コンクリート基礎、根巻コンクリート及び舗装版の穴あけが必要な場合は別途算出する。

(4) 施工箇所ごとに数量を算出し、項目別に合計延長を算出する。

2. 1. 2 立入防止柵工

1. 適用

立入防止柵の基礎ブロック、鋼管基礎、金網・支柱、支柱、門扉の設置に適用する。

2. 数量算出項目

基礎ブロック、鋼管基礎の基数、金網・支柱の延長、支柱の本数、門扉の基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①基礎ブロック、鋼管基礎

項目 \ 区分	規格	構造物種別	支柱柵高 門柱高	基礎砕石 の有無	単位	数量	備考
基礎ブロック	○	○	—	○	基		
鋼管基礎	○	—	○	—	基		

②金網・支柱（立入防止柵）、支柱（立入防止柵）

項目 \ 区分	規格	基礎種別	支柱柵高	支柱間隔	単位	数量	備考
金網・支柱（立入防止柵）	○	○	○	○	m		
支柱（立入防止柵）	○	○	○	—	本		

③門扉

項目 \ 区分	規格	門扉種別	門柱高	単位	数量	備考
門扉	○	片開き	○	基		
		両開き	—	基		

(2) 構造物種別

構造物種別は、下記のとおりとする。

- ① 金網柵
- ② 門扉

- (3) 支柱柵高、門柱高
支柱柵高、門柱高は、下記のとおりとする。
① 2 m以下
② 2 mを超え2.5 m以下
- (4) 基礎碎石の有無
基礎碎石の有無については、下記のとおりとする。
① 無し
② 有り (敷均し厚10 cm)
③ 有り (敷均し厚20 cm)
- (5) 基礎種別
基礎種別は、下記のとおりとする。
① 基礎ブロック
② 鋼管基礎
- (6) 支柱間隔
支柱間隔は、下記のとおりとする。
① 1.5 m
② 2 m

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

- (1) 基礎ブロック、鋼管基礎については、総基数、金網・支柱については総延長、支柱については総本数、門扉については総基数を区分ごとに算出する。

2. 1. 3 車止めポスト設置工

1. 適用

車止めポストの設置工に適用する。

2. 数量算出項目

車止めポストの本数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	作業区分	単位	数量	備考
車止めポスト	○	○	本		

注) 基礎の設置は、含まない。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

2. 1. 4 防雪柵設置・撤去工

1. 適用

防雪柵の設置及び撤去に適用する。

2. 数量算出項目

防雪柵、防雪柵（材料費）の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分、形式、取付方式、柵高とする。

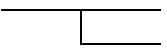
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考
防 雪 柵	○	○	○	○	○	m		
防雪柵（材料費）	○	×	×	×	×	m		

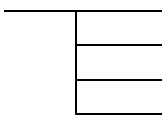
(2) 防雪柵の作業区分は、以下のとおりとする。

作業区分  設置
撤去

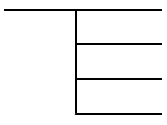
(3) 防雪柵の形式による区分は、以下のとおりとする。

形式  吹溜式
吹払式

(4) 防雪柵の取付方式による区分は、以下のとおりとする。

取付方式  仮設式（支柱＋張立材）
仮設式（張立材のみ）
固定式（支柱＋張立材）
固定式（張立材のみ）

(5) 防雪柵の柵高による区分は、以下のとおりとする。

柵高  3.5 m以下（吹溜式 仮設式）
3.5 mを超え6.0 m以下（吹溜式 仮設式）
5.0 m以下（吹溜式 固定式）
4.0 m以下（吹払式 仮設・固定式）

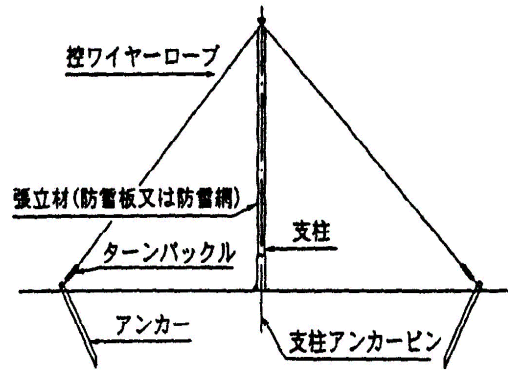
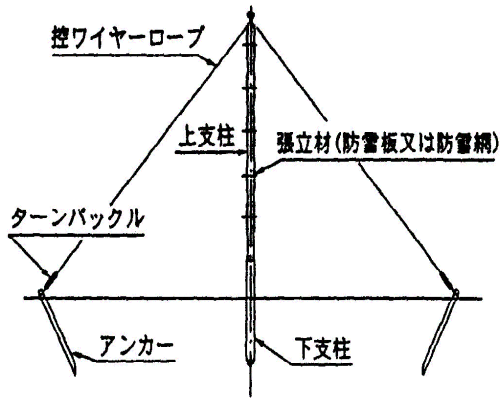
4. 数量算出方法

数量算出は「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

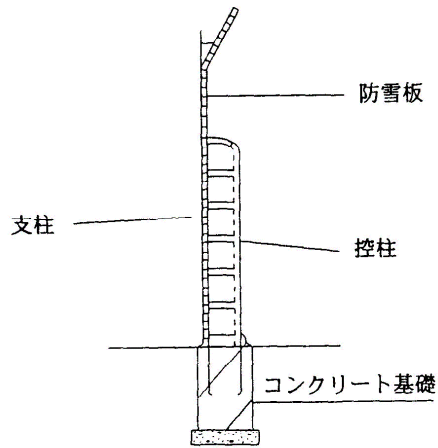
(1) 防雪柵（材料費）は、規格ごとに延長（m）を算出する。

5. 参考図（防雪柵の概念図）

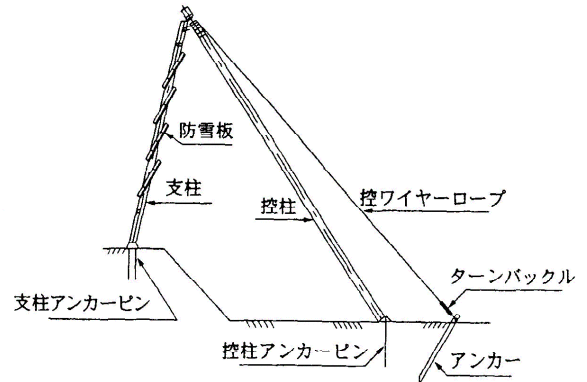
(1) 吹溜式防雪柵（仮設式）



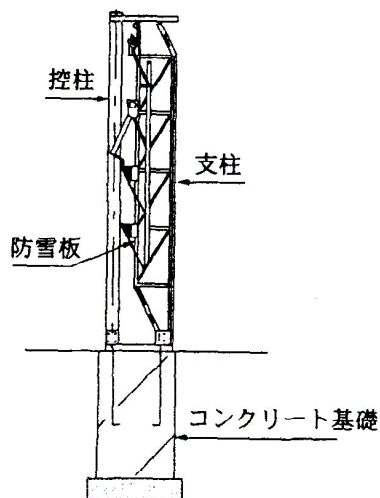
(2) 吹溜式防雪柵（固定式）



(3) 吹払式防雪柵（仮設式）



(4) 吹払式防雪柵（固定式）



2. 1. 5 雪崩予防柵設置工

1. 適用

雪崩予防柵設置工に適用する。

2. 数量算出項目

雪崩予防柵、雪崩予防柵（材料費）、吊柵アンカー、パイプアンカー（材料費）、樹脂アンカー（材料費）、簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、柵種類、クレーン機種、持上範囲、吊柵アンカー規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊柵アンカー規格	単位	数量	備考
雪崩予防柵	○	○	○	○	×	基		
雪崩予防柵 （材料費）	○	×	×	×	×	基		
吊柵アンカー	○	×	×	×	○	本		
パイプアンカー （材料費）	○	×	×	×	×	本		
樹脂アンカー （材料費）	○	×	×	×	×	本		
簡易ケーブルクレーン （1 t 吊） 設置・撤去	×	×	×	×	×	基		

(2) 雪崩予防柵の柵種類による区分は、以下のとおりとする。

柵種類

	固定柵
	吊柵

(3) 雪崩予防柵のクレーン機種による区分は、以下のとおりとする。

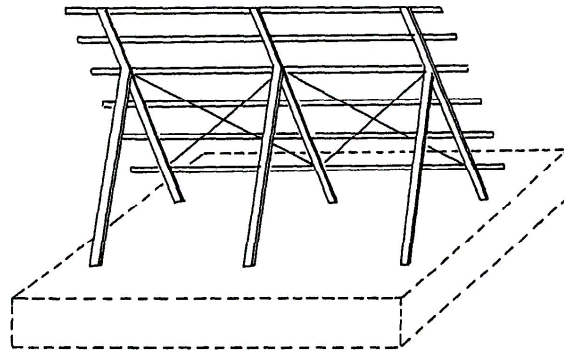
クレーン機種

	トラッククレーン
	ラフテレーンクレーン
	簡易ケーブルクレーン

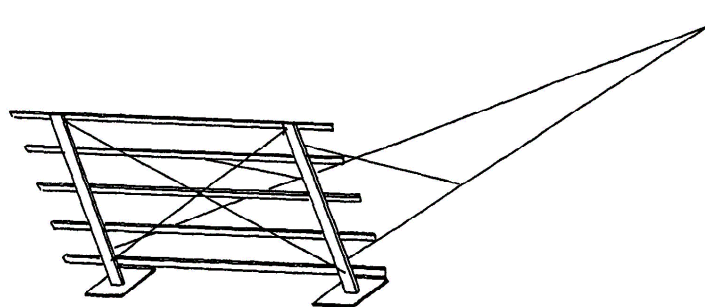
5. 参考図（雪崩発生予防柵設置工の種類）

雪崩発生予防柵の種類は、下図のとおりである。

1) 固定柵 - 固定基礎を有する柵



2) 吊柵 - 固定アンカーを有しワイヤ等で柵を吊っているもの



2. 1. 6 防雪柵現地張出し・収納工

1. 適用

現地収納式防雪柵の現地張出し及び現地収納に適用する。

適用できる範囲

・下表に示す種類、収納方式、柵高、支間長の場合

防雪柵の種類及び高さ・支間長

種類	収納方式	柵高	支間長
吹払式 又は 吹止式	支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)	5.5 m以下	4.0 m以下

2. 数量算出項目

防雪柵現地張出し・収納の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

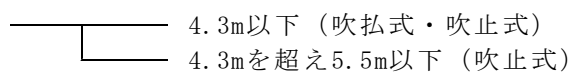
区分は、柵高 (m)、支間長 (m) 及び作業内容とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	柵高 (m)	支間長 (m)	作業区分	単位	数量	備考
防雪柵 現地張出し・収納	○	○	○	m		

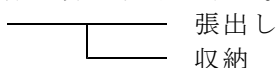
(2) 柵高

作業区分



(3) 防雪柵現地張出し・収納の作業区分は以下とする。

作業区分



4. 数量算出方法

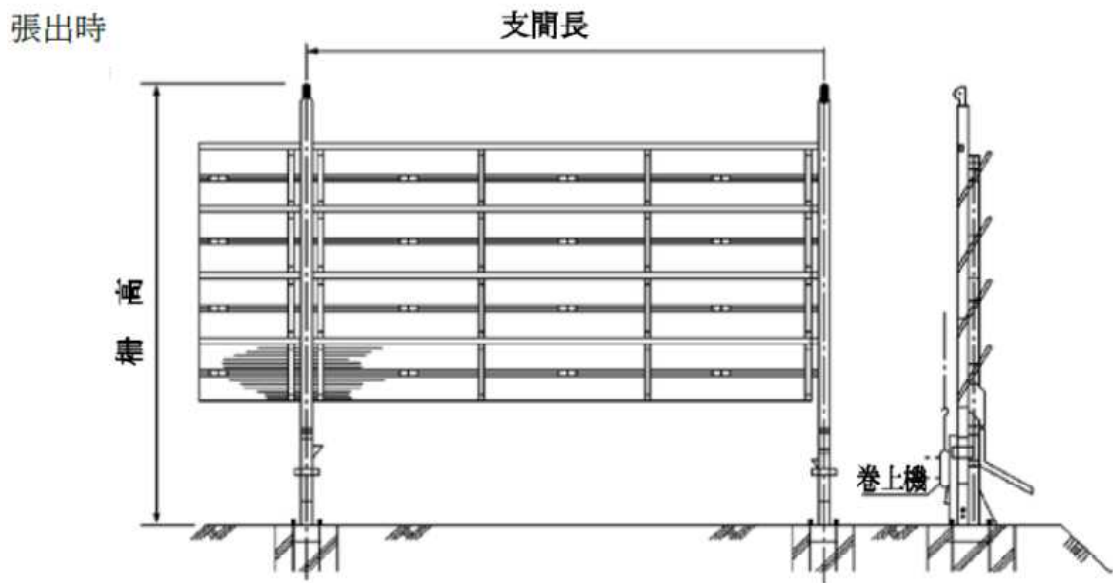
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 柵高は、張出し状態における支柱固定端から支柱・防雪板を問わず最上端となるまでの高さとする。

(2) 支間長は、支柱の中心間長さとする。

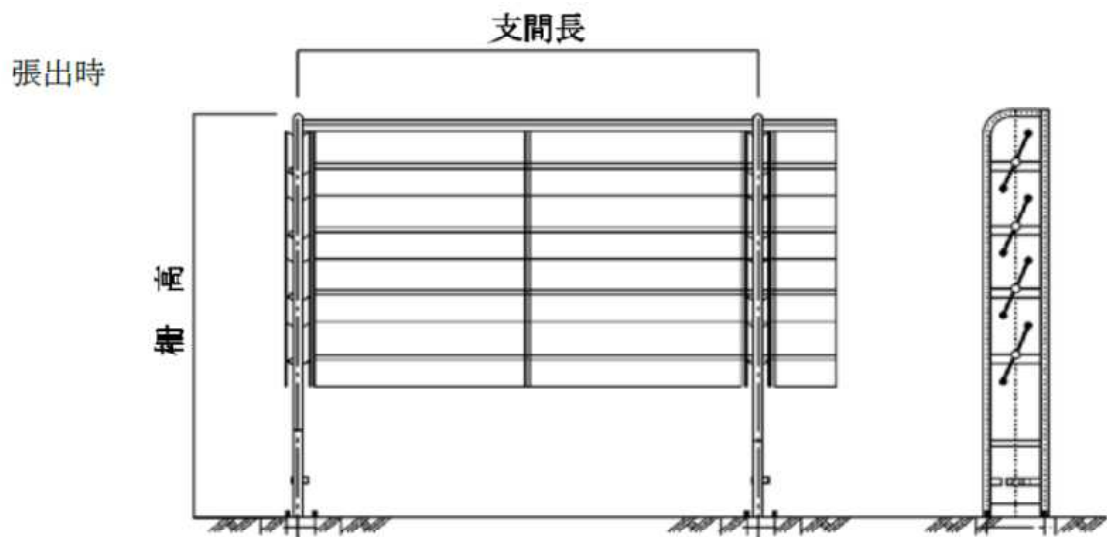
5. 参考図

(1) 吹払式 (連動型)



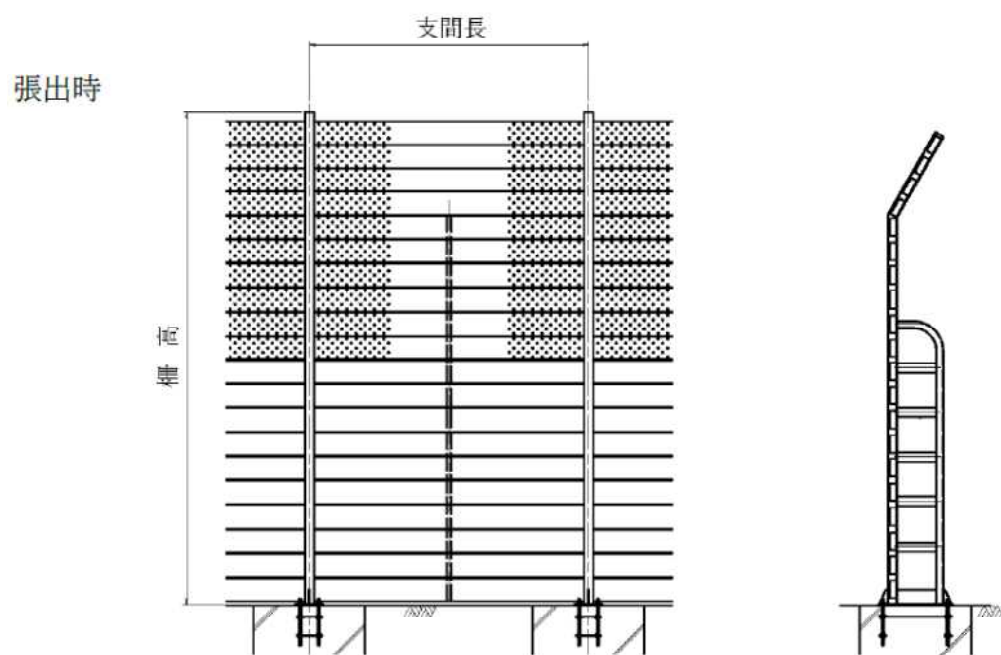
連動型：防雪板全数を同時に張出・収納するタイプ

(2) 吹払式 (単動型)



単動型：防雪板を一枚ごとに張出・収納するタイプ

(3) 吹止式 (連動型・単動型)



連動型：防雪板全数を同時に張出・収納するタイプ
単動型：防雪板を一枚ごとに張出・収納するタイプ

2. 1. 7 ワイヤロープ設置工

1. 適用

高規格幹線道路暫定2車線区間の土工部及び橋梁部におけるワイヤロープ式防護柵設置に適用する。ただし、未供用の橋梁部は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

端末基礎・端末金具の箇所数、中間・端末支柱、橋梁部基礎・支柱の本数、ワイヤロープの延長、ターンバックルの箇所数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① 端末基礎・端末金具

項目 \ 区分	規格	適用種別	設置形式	単位	数量	備考
端末基礎・金具	○	○	○	箇所		

標準外については、備考に1箇所当たりの本数及び資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

② 中間・端末支柱、橋梁部基礎・支柱

項目 \ 区分	規格	適用種別	設置形式	単位	数量	備考
中間・端末支柱	○	○	○	本		
橋梁部基礎・支柱	○	○		箇所		

標準外については、備考に1本（箇所）当たりの資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

③ 中間・端末支柱、橋梁部基礎・支柱

項目 \ 区分	規格	適用種別	単位	数量	備考
ワイヤロープ	○	○	m		

標準外については、備考に1m当たりの本数を明示し、区分して算出すること。

④ターンバックル

項目	区分	規格	適用種別	設置箇所	単位	数量	備考
ターンバックル		○	○	○	箇所		

標準外については、備考に1箇所当たりの本数及び資材の内訳を明示し、区分して算出すること。

(2) 適用種別

適用種別は、下記のとおりとする。

- ① A m 種
- ② B m 種
- ③ L D 種

(3) 設置形式

設置形式は、下記のとおりとする。

- ① 鋼管基礎
- ② コンクリート基礎
- ③ 根固めブロック・鋼管基礎

(4) 設置箇所

設置箇所は、以下のとおりとする。

- ① 中間部
- ② 端末部

4. 数量算出方法

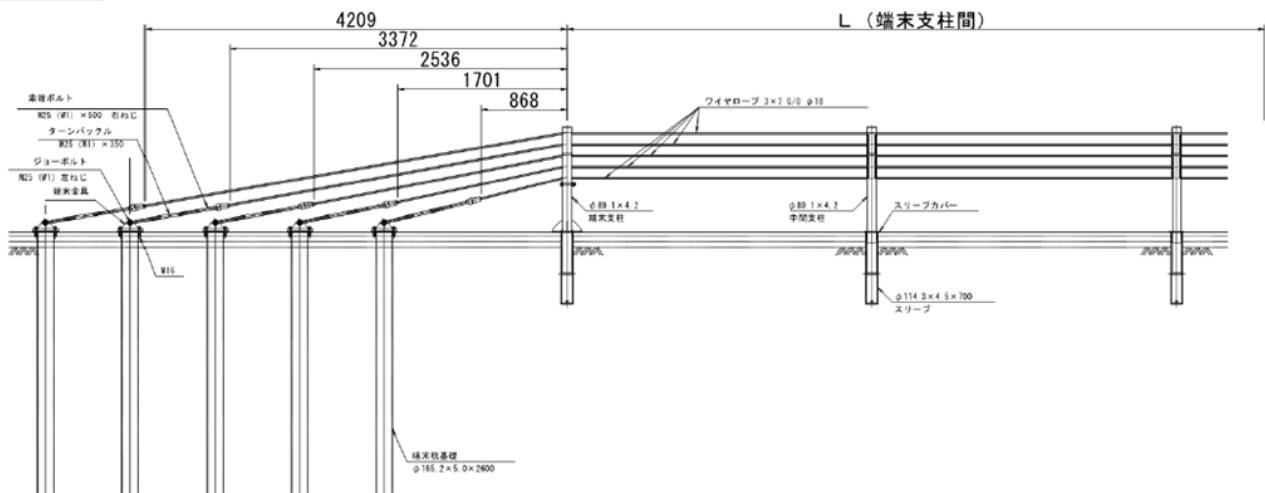
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

作業土工の算出は「第1編（共通編）2章土工」、コンクリート・型枠の算出は「第1編（共通編）4章コンクリート工」、舗装版の削孔・切断・破碎の算出は「第1編（共通編）10章構造物取壊し工」、床版処理の算出は「第3編（道路編）1章舗装工」によるものとする。

(1) 端末部におけるワイヤロープ延長のとり方は、下図のとおりとする。

端末部は端末支柱から索端金具の先端までの距離を平均し算出すること。

例 図



2. 2 落石防止工

2. 2. 1 落石防止網工

1. 適用

落石防止網（覆式、ポケット式）の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

金網・ロープ、アンカー、ポケット支柱等の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目		規格・仕様	単位	数量	備考
設	金網・ロープ	○	m ²		金網線径・亜鉛メッキ規格を明記
	岩盤用アンカー	○	箇所		アンカー径・長さを明記
	羽根付アンカー	○	箇所		アンカー径・長さを明記
	高耐力アンカー	○	箇所		アンカー有効長を明記
置	ポケット式支柱	○	箇所		注) 3. 支柱高さを明記
撤去			m ²		

- 注) 1. 数量は個々の落石防止網の施工箇所ごとに取りまとめる。なお、直高も明記する。
2. 覆式、ポケット式ごとに取りまとめる。
3. 支柱設置用アンカーは、岩盤用及び土中用に区分して算出する。

4. 数量算出方法

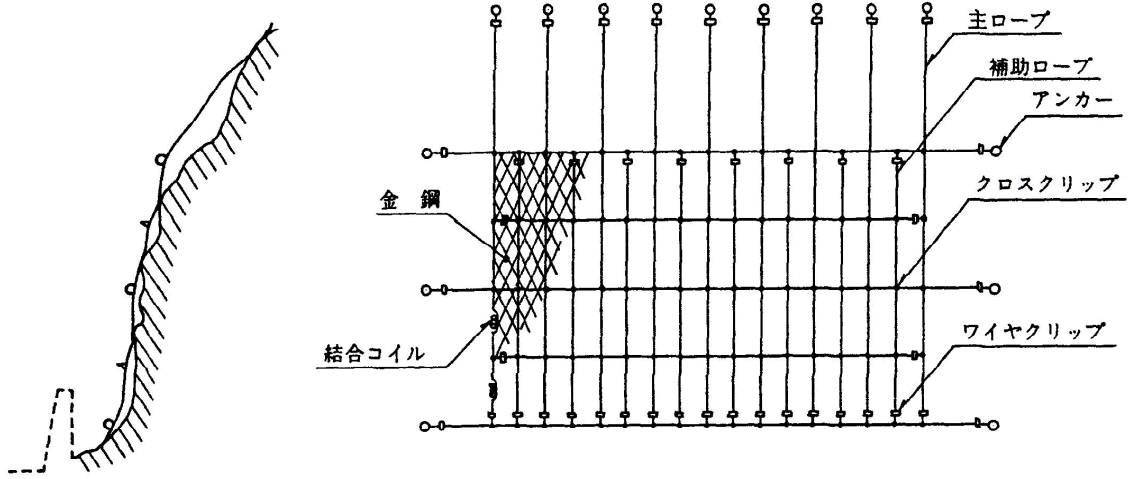
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 金網・ロープ

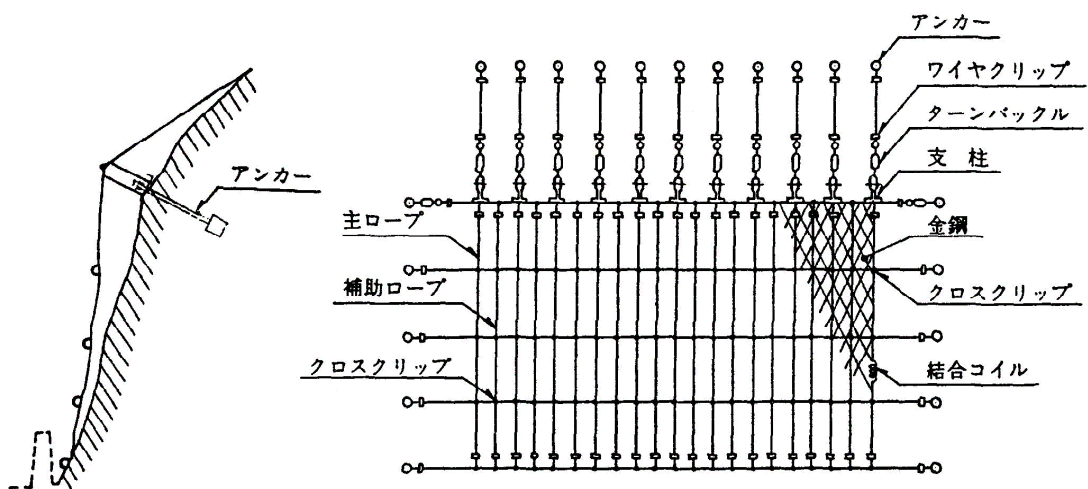
金網・ロープ面積は、材料ロス、継ぎ重ねによる割増を考慮しない金網の設置面積とする。

(2) 落石防止網（ロックネット）概念図

〔覆 式〕



〔ポケット式〕



2. 2. 2 落石防止網（繊維網）設置工

1. 適用

落石防止網（繊維網）の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

落石防止網の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	規格	単位	数量	備考
落 石 防 護 網	○	m ²		

2. 2. 3 落石防護柵工

1. 適用

落石防護柵の設置工及び撤去工に適用する。ただし、落雪の抑止効果を目的とする落雪（せり出し）防護柵には適用しない。

2. 数量算出項目

落石防護柵の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、柵高、支柱間隔・ロープ数、メッキの有無、間隔保持材の有無、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

落石防護柵の内訳は下記項目で算出する。

項目 \ 区分	柵高 (m)	支柱間隔 ロープ数 メッキの有無	間隔保持 材の有無	規格	単位	数量	備考
中間支柱	○	—	—	○	本		
端末支柱	○	—	—	○	本		
落石防護柵	○	○	○	○	m		
耐雪型落石防護柵 (上弦材付き)	○	○	—	○	m		
ステーロープ	—	—	—	○	本		岩盤用アンカーを含む

- (注) 1. 数量は個々の落石防護柵の施工箇所ごとに取りまとめる。
2. 数量は除石開閉口（排土口）を含めた数量を算出する。
3. 落石防護柵の撤去は、撤去する柵延長を各規格毎に算出し、対象となる鋼材質量を算出すること。
4. 柵の支柱を曲支柱とする場合は、区分して算出する。

4. 数量算出方法

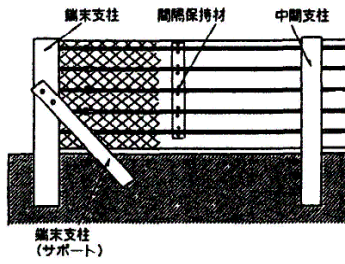
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 支柱の基礎部

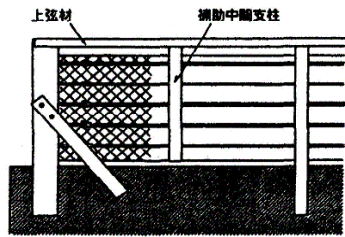
「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.1コンクリート工」による。

(2) 落石防護柵概念図

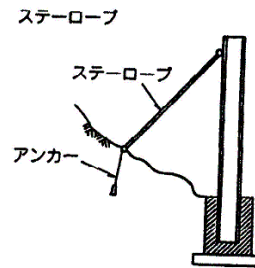
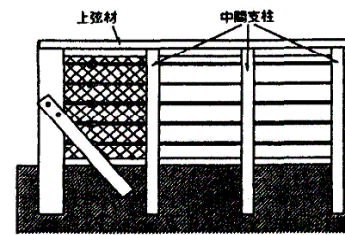
- 落石防護柵 (間隔保持材付き)



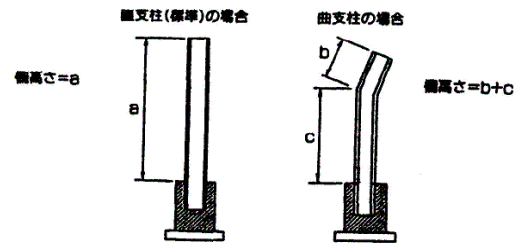
- 耐雷型落石防護柵 (上弦材付き) 3.0m間隔



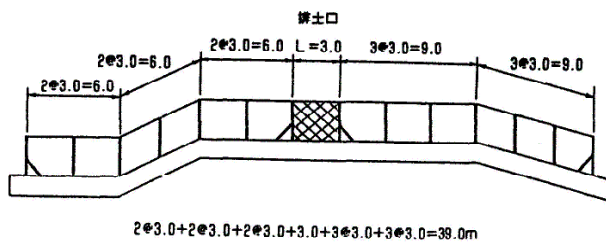
- 耐雷型落石防護柵 (上弦材付き) 2.0m間隔



- 落石防護柵 高さの考え方



- 落石防護柵の延長について



2. 3 標識工

2. 3. 1 標識工

1. 適用

道路標識の標識柱、標識板、標識基礎の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

標識柱、標識板、標識基礎の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造・種類、規格・仕様とする。

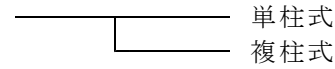
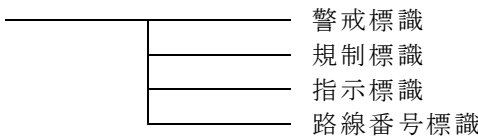
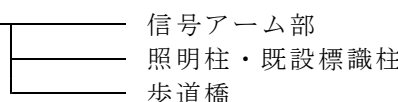
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目		区分	構造・種類	規格・仕様	単位	数量	備考
標識柱	路側式		○	○	基		
	片持式		×	×	基		※1
	門型式		×	○			※1
標識板	案内標識		×	○	枚		※2
	警告・規制・支持・路線番号		○	×	枚		
標識基礎	路側式		○	×	基		
	片持式		×	×	基		※3
	門型式		×	×			※3
添架式標識板取付金具			○	×	基		※4

- 柱) 1. 備考欄に※1があるものは、標識柱の1基当り質量 (kg/基) も算出すること。
 2. 備考欄に※2があるものは、標識板の1枚当り面積 (m²/基) も算出すること。
 3. 備考欄に※3があるものは、標識基礎の1基当り体積 (m³/基) も算出すること。
 4. 添架式標識板取付金具の単位 (基) は、標識板枚数で算出すること。
 また、取付金具の段数を区分して算出すること。

(2) 構造・種類区分

構造・種類による区分は、次のとおりとする。

- ① 標識柱 (路側式)、標識基礎 (路側式)  単柱式
 複柱式
- ② 標識板 (案内標識以外)  警戒標識
 規制標識
 指示標識
 路線番号標識
- ③ 添架式標識板取付金具の取付箇所  信号アーム部
 照明柱・既設標識柱
 歩道橋

(3) 規格・仕様区分

規格・仕様区分は、次のとおりとする。

① 標識柱（路側式）

・ 柱の径	_____	φ 60.5 mm
	_____	φ 76.3 mm
	_____	φ 89.1 mm
	_____	φ 101.6 mm
・ 柱の塗装仕様	_____	メッキ
	_____	下地亜鉛メッキ+静電粉体塗装（白色）
	_____	下地亜鉛メッキ+静電粉体塗装（景観色）
	_____	静電粉体塗装（白色） 静電粉体塗装（景観色）

② 標識柱（門型式）

・ 柱の1スパンの長さ	_____	10 m未満
	_____	10 m以上20 m未満
	_____	20 m以上

③ 標識板（案内標識）

・ 反射シートの仕様	_____	広角プリズム
	_____	カプセルプリズム、カプセルレンズ
	_____	封入プリズム・封入レンズ

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 標識板

- 1) 板の支柱（梁材）への取付ブラケットは、溶接を標準とする。クランプ型ブラケットで取付ける場合は、必要組数を別途算出する。
- 2) 補助板は、本板と1組で1枚とする。
- 3) 取付材料（ボルト・ナット等）を別途算出する。

(2) 標識基礎

- 1) コンクリート基礎は、床掘り・埋戻し土量（m³）、コンクリート体積（m³）等を算出する。なお、門型式における基礎は、左右各々の数量（m³）を算出する。
- 2) アンカーボルトの数量を別途算出する。

(3) 掘削残土については別途算出する。

2. 4 道路付属施設工

2. 4. 1 区画線工、高視認性区画線工

1. 適用

道路に設置する区画線、道路標示の設置及び消去に適用する。

2. 数量算出項目

区画線の設置延長及び消去延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

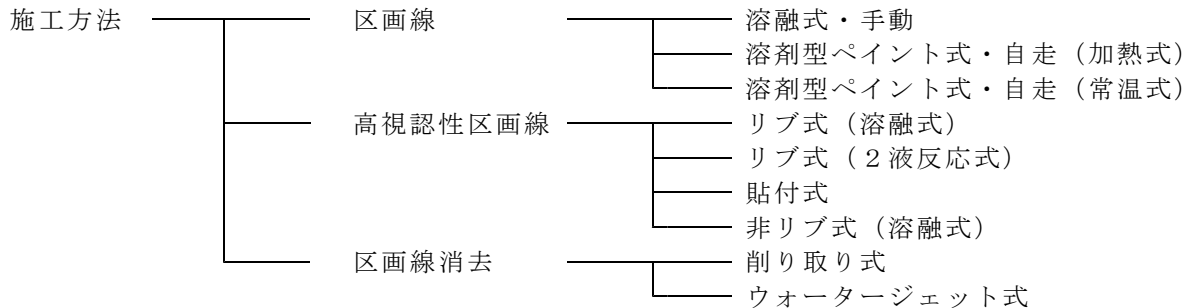
区分は、施工方法、規格・仕様、施工区間、色、厚さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工方法	規格仕様	施工区間	色	厚さ	単位	数量	備考
区画線設置	○	○	○	○	○	m		
区画線消去	○	×	○	×	×	m		1.5cm換算

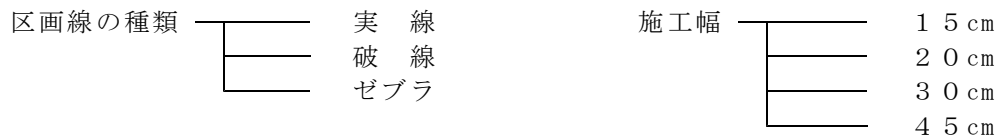
(2) 施工方法区分

施工方法区分は、次のとおりとする。



(3) 規格・仕様区分

規格・仕様の区分は線種、施工幅毎に区分して算出する。



道路標示の種類 ──── 矢印・記号・文字 施工幅 ──── 1.5cm換算

- 注) 1. 矢印・記号・文字は、構成する線幅が1.0cm未満のものについて、区分して算出する。
2. 区画線における横断歩道・停止線等はゼブラを適用する。

- (4) 施工区間区分
- 区画線設置
施工区間区分は、供用区間、未供用区間を区分して算出する。
排水性舗装区間については、上記区分に追加して区分する。
 - 区画線消去
排水性舗装区間については、区分して算出する。
- (5) 色、厚さの区分
- 色については、白色又は黄色に区分する。
厚さについては、1.5mm又は1.0mmに区分する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 区画線設置

実線・破線・ゼブラについては塗布幅毎の延長を、矢印・記号・文字等については、面積・箇所ごとに15cm換算した延長を算出する。ただし、構成する線幅が10cm未満の矢印・記号及び文字については、区分して算出する。

なお、破線については、実際に塗布する延長とする。

※15cm換算の方法については、道路標示施工ハンドブック《（社）北海道道路標示業協会発行》を参考とする。

(2) 区画線消去

消去面積を15cm換算した延長を算出する。

《参考1》区画線の使用区分について

区画線の交通量による使用区分は次のとおりとする。

区画線種別	交通区分		摘 要
	3,000台/日以上	3,000台/日未満	
中車線中央境界線	加熱式	常温式	実線・破線（自走）
外側線	常温式	〃	実線（自走）
中央分離帯	加熱式	〃	実線（自走）
中央分離帯 (ハッチ)	常温式	〃	(手動)
横断歩道 ゼブラ・停止線	熔融式	熔融式	横断線（手動）
路面標示	〃	〃	矢印・記号（手動）
ドット線	〃	〃	破線（手動）

- (注) 1. 追越しのための右側部分はみだし通行禁止の新規の場合は、公安委員会で実施する。
2. 横断歩道、路面標示については、新設舗装の場合、公安委員会で実施する。
(現況復旧の場合は、交通量による使用区分とする。)
3. 3,000台/日未満の中央線、車線境界線及び3,000台/日以上の外側線は、道路状況などにより、常温式を加熱式にすることができる。
4. 現道のラインの補修工事については、交通量による区分とする。

《参考2》その他の区分設定について

- (1) 豪雪補正は、北海道では「有り」を選択する。
(2) 熔融式塗料の厚さ・含有量規格については、北海道建設部土木工事共通仕様書 I 土木工事共通仕様書（本文）1-2-14-2 区画線 を参照すること。

2. 4. 2 路側工

1. 適用

歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、インターロッキングブロック、ブロック規格が30cm×30cm及び40cm×40cmの平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

歩車道境界ブロック、地先境界ブロックの延長、及びインターロッキングブロック、平板ブロック及び視覚障害者誘導用ブロックの面積を区分ごとに算出する。

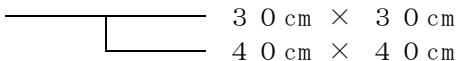
3. 区分

区分は、規格、作業区分、基礎碎石の有無、均し基礎コンクリート規格、養生工の有無、とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	m当り使用量(個/m)	単位	数量	備考
歩車道境界ブロック	○	○	○	○	○	○	m		
地先境界ブロック	○	○	○	○	○	○	m		
インターロッキングブロック	○	×	×	×	×	×	m		敷材料の厚さと種類を明記
平坂ブロック	○	×	×	×	×	×	m		
視覚障害者誘導用ブロック	○	×	×	×	×	×	m		

(2) 規格区分

平坂ブロック 

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 土工（床掘り・埋戻し）、基礎（材・コンクリート等）、舗装版切断等が必要な場合は別途算出する。

2. 4. 3 境界工

1. 適用

境界杭（河川境界杭を含む）、境界鋸の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

境界杭、境界鋸の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規 格	単 位	数 量	備 考
境 界 杭	○	本		
境 界 鋸	○	枚		

4. 数量算出要領

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 境界杭で根巻基礎ありと根巻基礎なしは分けて算出する。

2. 4. 4 道路付属物工

1. 適用

視線誘導標、距離標、道路鋸、車線分離標の設置工及び撤去工に適用する。

2. 数量算出項目

視線誘導標、距離標、道路鋸、車線分離標の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、設置形式、作業区分、形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	設置形式	作業区分	形式	単位	数量	備考
視線誘導標	○	○	—	—	本		
距離標	—	—	○	○	基		
道路鋸	○	○	—	—	個		
車線分離標	○	○	—	—	本		

注) 視線誘導標は、標準型とスノーポール併用型に区分して算出する。

(2) 規格区分

規格による区分は、下記のとおりとする。

1) 視線誘導標 [標準型・スノーポール併用型]

〈1〉両面・片面の区分

- ①両面反射
- ②片面反射

〈2〉反射体の径

- ①φ100mm以下
- ②φ300mm

〈3〉支柱径 (標準型の反射体径100mm以下のみ)

- ①φ34mm
- ②φ60.5mm
- ③φ89mm

土中建込用・コンクリート建込用

〈4〉取り付け方式 (標準型のみ)

- ①バンド式
 - ②ボルト式
 - ③かぶせ式
 - ④側壁用
 - ⑤ベースプレート式
- 防護柵取付用
構造物取付用

〈5〉反射体数 (スノーポール併用型のみ)

- ①1個
- ②2個

2) 道路鋸

〈1〉道路鋸の種類

- ①大型鋸 (高さ30mmを超え50mm以下)
- ②小型鋸 (高さ30mm以下)

〈2〉両面・片面の区分

- ①両面反射
- ②片面反射

〈3〉材質

- ①アルミ製
- ②樹脂製

〈4〉設置幅区分

- ①30cm
 - ②20cm
 - ③15cm
 - ④10cm
- 大型鋸
小型鋸

※設置幅は、道路上に設置したときの幅であり、材料本体の幅ではない。

3) 車線分離標

(1) 高さ

- ① 400 mm
- ② 650 mm
- ③ 800 mm

(3) 設置形式区分

設置形式による区分は、下記のとおりとする。

1) 視線誘導標

- ① 土中建込用
- ② コンクリート建込用(削孔含む)
- ③ コンクリート建込用(削孔含まない)
- ④ 防護柵取付用
- ⑤ 構造物取付用

2) 道路鋸

- ① 穿孔式
- ② 貼付式

3) 車線分離標

- ① 可変式
- ② 着脱式
- ③ 固定式

(4) 形式区分

形式による区分は、下記のとおりとする。

1) 距離標種別

- ① パネル式(アンカー固定)
- ② パネル式(金具固定)
- ③ パネル式(土中埋込)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 視線誘導標

土中建込用においては、基礎を使用する場合も含めて算出すること。

(2) 距離標

距離標は、基礎(既製、現場打別)及び取付用アンカーボルト等の材料を別途算出する。

2. 5 遮音壁設置工

1. 適用

遮音壁支柱製作工及び遮音壁設置工に適用する。

2. 数量算出項目

支柱アンカー、支柱アンカー（材料費）、支柱建込、支柱（材料費）、土留板取付、土留板（材料費）、しゃ音板・透光板（材料費）、落下防止柵（材料費）、下段パネル（材料費）、笠木取付、笠木（材料費）、外装板取付、外装板（材料費）、水切板取付、水切板（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、形式、支柱間隔、設置高さ、支柱材料種類、施工区分とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	規格	形式	支柱間隔	設置高さ	支柱材料種類	施工区分	単位	備考
支柱アンカー	×	○	○	○	×	×	m	
支柱アンカー（材料費）	○	×	×	×	×	×	m	注1)
支柱建込	×	○	○	○	×	×	m	
支柱（材料費）	○	×	×	×	○	×	t	注2)
土留板取付	×	×	×	○	×	×	m ²	
土留板（材料費）	○	×	×	×	×	×	m ²	注3)
しゃ音板・透光板取付	×	×	×	○	×	○	m ²	
しゃ音板・透光板（材料費）	○	×	×	×	×	×	m ²	注4)
落下防止柵（材料費）	○	×	×	×	×	×	個	
下段パネル（材料費）	○	×	×	×	×	×	m	
笠木取付	×	×	×	○	×	×	m	
笠木（材料費）	○	×	×	×	×	×	m	
外装板取付	×	×	×	○	×	×	m ²	
外装板取付（材料費）	○	×	×	×	×	×	m ²	注5)
水切板取付	×	×	×	○	×	×	m	
水切板（材料費）	○	×	×	×	×	×	m	

注1) しゃ音壁1m当り使用本数も算出する。

注2) 鋼材質量を支柱材料種類ごとに区分して算出する。

注3) 土留板1m²当り使用枚数も算出する。

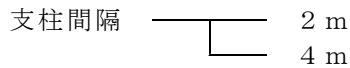
注4) しゃ音板・透光板1m²当り使用枚数も算出する。

注5) 外装板1m²当り使用枚数も算出する。

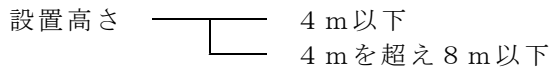
(2) 形式による区分は、以下のとおりとする。

形式 A型（埋設アンカー方式）
B型（穿孔アンカー方式）

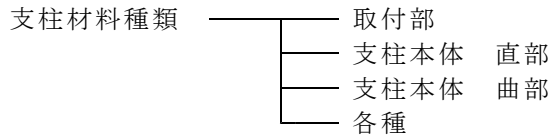
(3) 支柱間隔による区分は、以下のとおりとする。



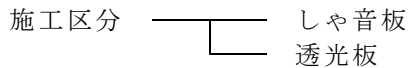
(4) 設置高さによる区分は、以下のとおりとする。



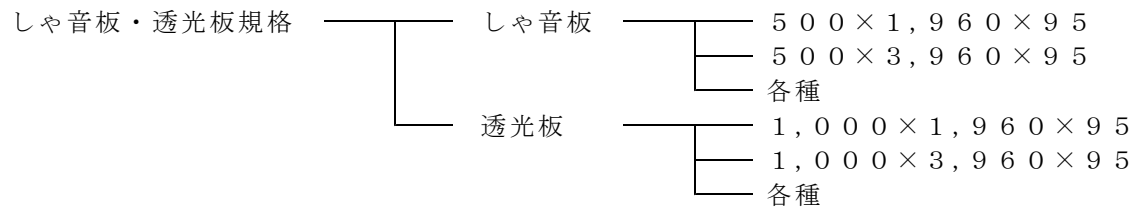
(5) 支柱材料種類による区分は、以下のとおりとする。



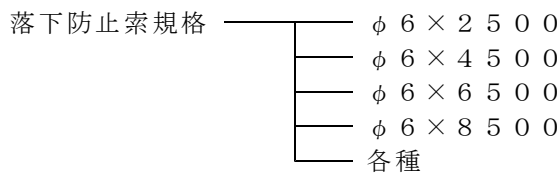
(6) 施工区分による区分は、以下のとおりとする。



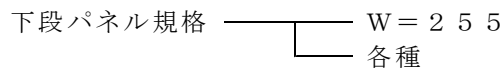
(7) シャ音板・透光板規格による区分は、以下のとおりとする。



(8) 落下防止索規格による区分は、以下のとおりとする。



(9) 下段パネル規格による区分は、以下のとおりとする。



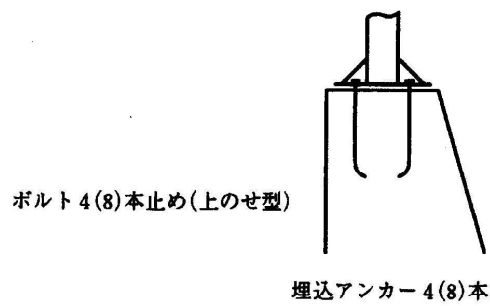
4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

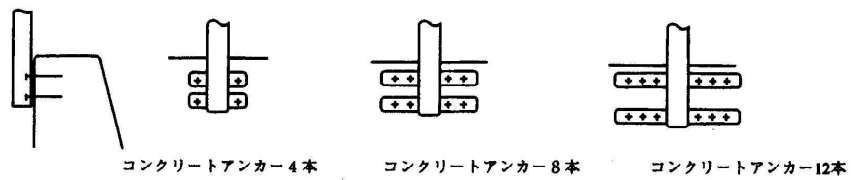
5. 参考図

支柱取付形式区分 (付図)

(1) A型

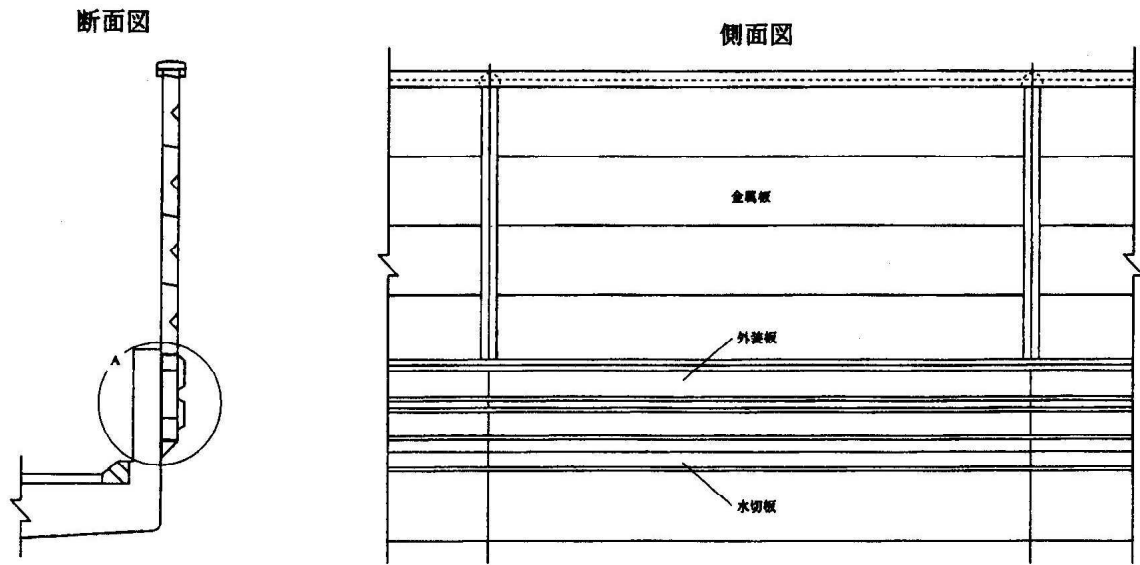


(2) B型

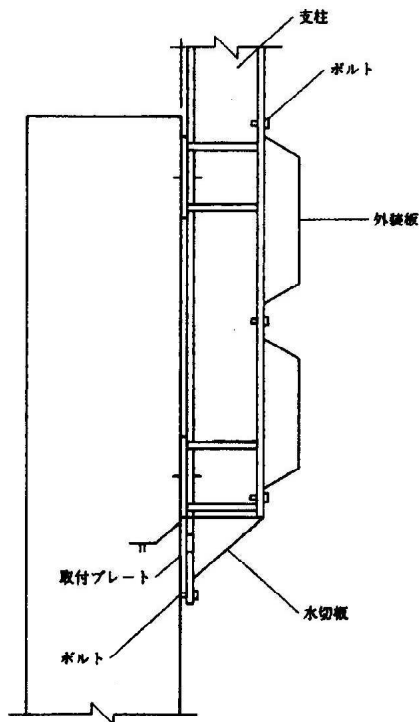


6. 参考資料

①水切り板取付工 概念図

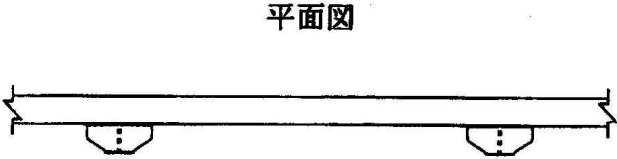
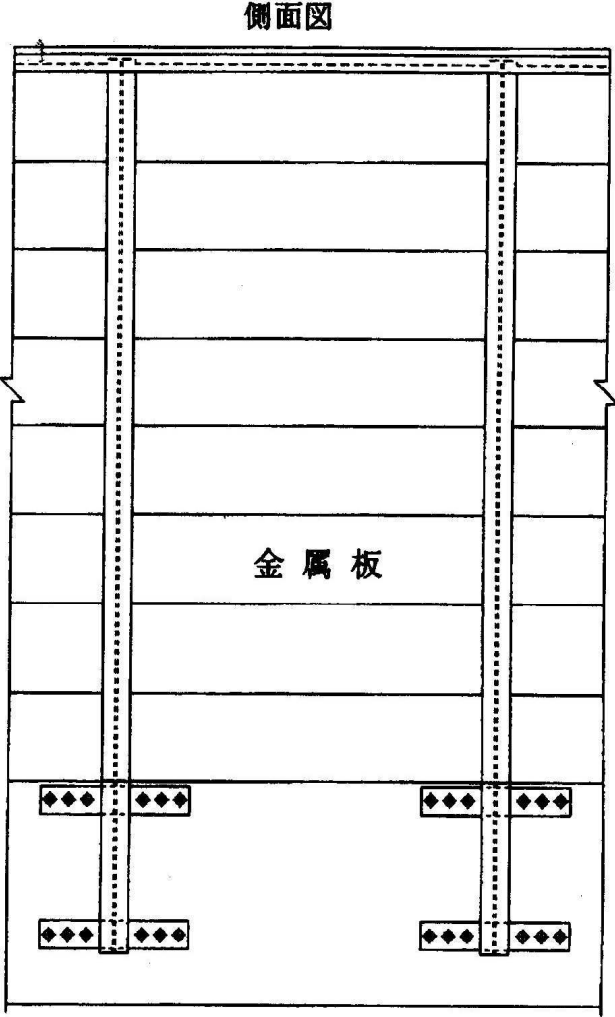
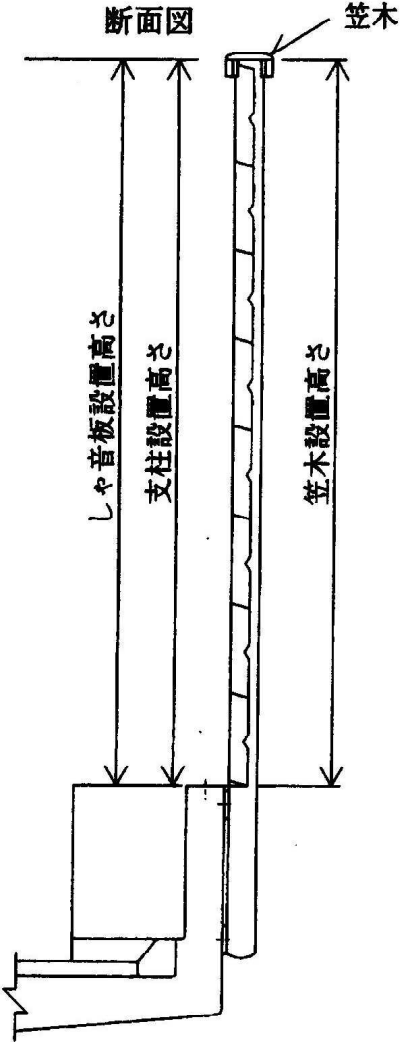


A部詳細図

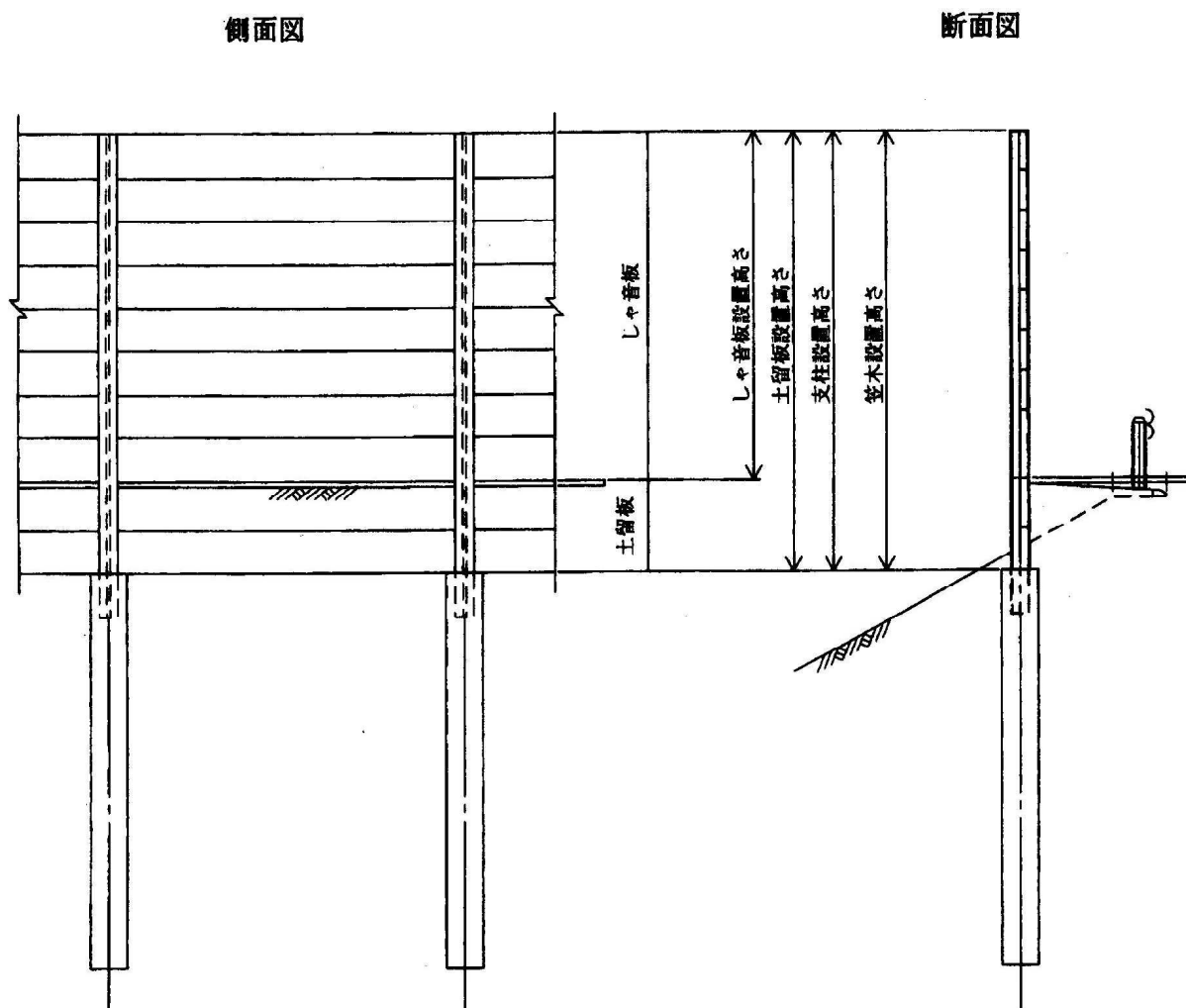


※水切り板の設置高さは、施工基面からとする。

② 笠木取付工 概念図



③土留板取付工 概念図



2. 6 組立歩道工

1. 適用

プレキャスト床版の支柱式（斜柱を含む）又は片持式組立歩道及び現場打設コンクリート床版の支柱式（斜柱を含む）組立歩道の組立・据付作業に適用する。

組立歩道組立据付 構造形式一覧

形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱（受桁）間隔	幅員
支柱式	プレキャスト コンクリート製	鋼製		3 m	1.0 m
		プレキャストコンクリート製 又は鋼製			1.5 m
					2.0 m
					2.5 m
プレキャストコンクリート製		5 m	2.0 m		
片持式 （鋼製受桁形式）	プレキャスト コンクリート製	—	鋼製	3 m	1.0 m
					1.5 m
					2.0 m
片持式	プレキャスト コンクリート製	—	—	—	1.5 m
					2.0 m
支柱式	現場打	鋼製		3 m	1.5 m
					2.0 m

2. 数量算出項目

組立歩道組立据付、組立歩道（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、形式区分、床版形式、支柱（受桁）間隔、幅員、作業内容区分とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目	区分						単位	数量	備考
	規格	形式区分	床版形式	支柱（受桁）間隔	幅員	作業区分			
組立歩道組立据付	×	○	○	○	○	○	m		
組立歩道（材料費）	○	×	×	×	×	×	m		

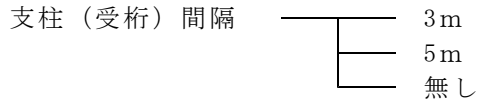
(2) 形式区分は、以下のとおりとする。

形式区分 $\begin{array}{l} \text{—} \\ \text{—} \end{array}$ 支柱式
 $\begin{array}{l} \text{—} \\ \text{—} \end{array}$ 片持式

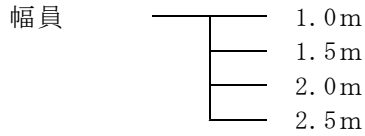
(3) 床版区分は、以下のとおりとする。

床版区分 $\begin{array}{l} \text{—} \\ \text{—} \end{array}$ プレキャストコンクリート製
 $\begin{array}{l} \text{—} \\ \text{—} \end{array}$ 現場打

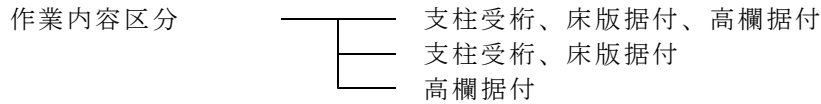
(4) 支柱（受桁）間隔による区分は、以下のとおりとする。



(5) 幅員による区分は、以下のとおりとする。



(6) 作業内容区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		「第1編（共通編）11.4足場工」参照
支柱等基礎	m ³		必要な場合別途計上
現場打床版コンクリート打設等	m ³		必要な場合別途計上

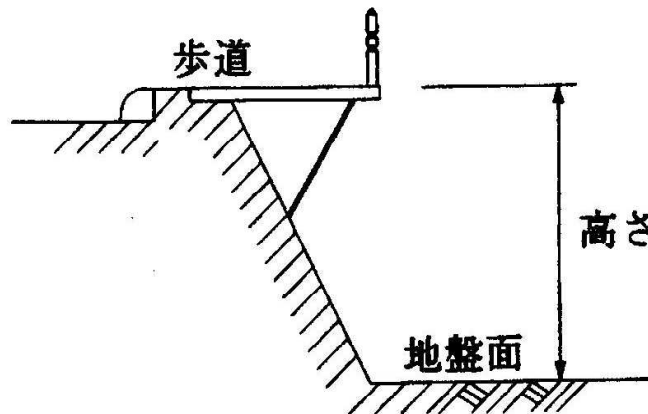
(注) 足場は原則として高さ（地盤面により床版までの高さ）が2m以上の場合に計上する。
足場は単管傾斜足場を標準とする。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

5. 参考図

(参考図)



2. 7 道路植栽工

1. 適用

道路の植樹に適用する。

2. 数量算出項目

植樹を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、樹木の種類、支柱の種類、施工場所とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	樹木種類	支柱種類	施工場所	単位	数量	備考
植 樹	○	×	○	本		
支 柱	×	○	○	本・m		
地被類植付	×	×	○	鉢		

- 注) 1. 単位の「本」は樹木1本当たりとし、単位の「m」は、支柱設置延長とする。
 2. 高木とは、樹高3m以上、中木とは樹高60cm以上3m未満、低木とは樹高60cm未満とする。また、幹周とは根鉢の上端から高さ1.2mでの幹の周囲長とし幹が枝分かれている場合の幹周は各々の総和の70%とする。

(2) 施工場所区分

植樹を施工場所ごとに区分して算出する。
 なお、施工場所の定義は以下のとおりとする。

- ① 供用区間：車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受ける現道上の施工場所で、次のとおり区分する。

歩 道	歩道または、車道と歩道の上に設置した植栽地
交 通 島	交差点において車両を導流するための導流島及び歩行者の安全を確保するために設けられた安全島及び植栽地
中央分離帯	交通の分流制御を目的とした中央分離帯等に設けられた植栽地
環境緑地帯	幹線道路の沿道の生活環境を保全するための環境施設帯（駐車帯・道の駅等）に設けられた植栽地

- ② 未供用区間：バイパス施工中等で、車両、自転車、歩行者等一般交通の影響を受けない施工場所。

(注) 現道上であっても、一般交通の影響をほとんど受けずに作業実施可能な施工場所（通行止区間等）は、未供用区間とする。

(3) 樹木の種類区分

項目別の樹木の種類による区分は、以下のとおりとする。

項目	樹木の種類	
植樹	低木	樹高 60 cm未満
	中木	樹高 60 cm以上 100 cm未満
		樹高 100 cm以上 200 cm未満
		樹高 200 cm以上 300 cm未満
	高木	幹周 20 cm未満
		幹周 20 cm以上 40 cm未満
		樹高 40 cm以上 60 cm未満
		樹高 60 cm以上 90 cm未満

注) 低木には、株物、一本立を含む。

(4) 支柱の種類区分

項目別の支柱の種類による区分は、以下のとおりとする。

項目	支柱の種類	
支柱	中木	二脚鳥居 添木付 樹高 250 cm以上
		八ッ掛 (竹) 樹高 100 cm以上
		添柱形 (1本形・竹) 樹高 100 cm以上
		布掛 (竹) 樹高 100 cm以上
		生垣形 樹高 100 cm以上
	高木	二脚鳥居 添木付 幹周 30 cm未満
		二脚鳥居 添木無 幹周 30 cm以上 40 cm未満
		三脚鳥居 幹周 30 cm以上 60 cm未満
		十字鳥居 幹周 30 cm以上
		二脚鳥居 組合せ 幹周 50 cm以上
		八ッ掛 幹周 40 cm未満
		八ッ掛 幹周 40 cm以上

4. 参考資料

(1) 植樹工の根鉢・植穴寸法及び客土量・土壤改良材使用量

植樹工において根鉢・植穴寸法及び客土・土壤改良材使用量は下表を参考にすること

(高 木)

(一本当り)

幹 周 (cm)	鉢 径 (cm)	鉢深さ (cm)	植穴径 (cm)	植穴深 (cm)	鉢容量 (m ³)	植穴容量 (m ³)	客土量 (m ³)	土壤改良材 (kg)
15未満	30	26	66	37	0.031	0.126	0.095	1.90
15以上～ 20未満	49	37	88	52	0.049	0.313	0.264	5.28
20以上～ 30未満	64	45	105	62	0.123	0.535	0.412	8.24
30以上～ 40未満	83	56	127	76	0.301	0.967	0.666	13.32
40以上～ 60未満	111	73	160	98	0.739	1.974	1.235	24.70
60以上～ 90未満	159	100	216	134	1.923	4.888	2.965	59.30

(中低木)

(一本当り)

樹 高 (cm)	鉢 径 (cm)	鉢深さ (cm)	植穴径 (cm)	植穴深 (cm)	鉢容量 (m ³)	植穴容量 (m ³)	客土量 (m ³)	土壤改良材 (kg)
45未満	18	13	22	28	0.004	0.011	0.007	0.14
45以上～ 60未満	20	15	29	30	0.005	0.019	0.014	0.28
60以上～ 75未満	21	16	32	30	0.006	0.025	0.019	0.38
75以上～ 90未満	23	16	35	31	0.007	0.031	0.024	0.48
90以上～ 120未満	24	18	40	33	0.009	0.041	0.032	0.64
120以上～ 150未満	26	19	44	34	0.010	0.052	0.042	0.84
150以上～ 200未満	30	22	55	37	0.016	0.088	0.072	1.44
200以上～ 250未満	34	25	66	40	0.023	0.135	0.112	2.24
250以上～	38	28	76	43	0.032	0.197	0.165	3.30

注) 1. 上記土壤改良材使用量は、客土1m³当り20kg使用をした場合のものである。

(2) 根鉢・植穴参考図

